

---

# 肛門Project

アイン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

肛門Project

### 【コード】

N1974Z

### 【作者名】

アイン

### 【あらすじ】

突然幻想入りした男がトイレを探しながら幻想郷に迷惑をかけていくお話です。

なに？○ソとな？（前書き）

その場の勢いとノリで書いた文です。

決してエロではありません。

おなかを食べ物で満たしてから読んでください。

先に言っておくと、大ちゃんとチルノちゃんが好きな方、ごめんなさい。

なに？○ソとな？

気が付いたら知らない世界にいた。

「痛い痛い。」

お腹が痛い。

俺は腹痛持ちですぐ下痢をする。

極度の緊張しいでもありお腹がもつどうしようもない。

知らない世界とかどうでもいいから○ソをしたい。

「仕方ないか・・・」

どこか身を隠せるような茂みを探す。

あったあった。

紙は・・・くそ、きれてやがる。

見つけた茂みに入りながら、仕方なく俺は履いていたG・パンに手を掛け

・・・

目があっている、なんか知らんがじつとこっちを見つめている。

茂みの中には緑色の髪をした女の子がいた。

「や、やあ。」

「ヒッ！ー！」

なんか叫ばれた、そうだよな自分の居る場所にズボンを擦り下げな

がら男が近寄ってくるのだ、逆に恐くない訳がない。

「Don't move」

何を言っているんだ俺は、とりあえず落ち着いてもらおうと思ったのに、それがこの様である。これでは強姦魔ではないか。

「わ、わたしはじめてで・・・」

お前もなにを口走っているんだ!!!

「そんなことはどうでもいいんだ!!」

「ヒッ!?!」

いやまてこの場面でこのセリフもまずい・・・

「あつあ、、、、、」

・・・・めっちゃこわがとるやんけ。

このままでは本当にまずい、とりあえず優しい笑顔で

「怯えないで、痛い事はしないから。」

「ひう、、、、」

やばい逆効果だったようだ、この状況に気を取られてやっこさんも引っ込んじまった。

とりあえず、ズボンから手を放そう、あまりの事に俺はズボンを下ろしかけたまま喋っていたようである。

ハハツ、失敗失敗。

「話を聞いてくれるかい？」

「……………」

少女は黙っている、了承ということだろうか、まさかあまりの恐怖に言葉が出ないなんてことはあるまい。

「お兄さんはう〇こがしたかっただけなんだ。」

「……………」

少女は沈黙を保ったまま体一つ分後ろにさがった。

「分かってくれるね？」

クソ、想像したらまたぶり返してきやがった。

はやく楽になりたい。

少女の反応よりも自分の腹周りの心配のほうが大きくなってきやがった。

少女よとりあえずどこかにきえろ、いますぐにいいい。

「はやくー!ー!」

気付いたらその部分だけ口にしていた。

完璧に主語が抜けている。

「わ、わたしに便器になれってことですか？」

くぁwせdrftgyふじこーipzxcvm!ー!ー?????

最早脱帽である。

いや、全て俺が悪いのだがそれにしてもおい!!!  
少し顔を赤らめているのもなんか腹が立つ。

「そんなこといってねえ!!!」

「ヒッ!!!」

終始少女は怯えっぱなしである。

なんか申し訳ないが、おれのお腹もどうしようもない。

「そこでなにやってんのさ!!!」、「、

その時声が響いた、もう少女もお腹ものっぴきならない状況なのだ、  
これ以上面倒事なんてごめん。

いや、逆転の発想だ。

変化のなくなった世界に新しい風が吹いた、さあ、声の主よ戦場に  
吹く一陣の風となれ!!!

俺は後ろを振り返り

「何やってんの?おもしろそうね、あたかもませなさい!!!」

あうえ s t d f r k y v k u びえと b : ぼ l , o r t

そいつは半端ない衝撃でお腹に突撃してきた。

.....

やべえ、少し漏れた。

なんとか踏ん張って汚染の拡大を食い止めることはできた。

・・・  
ふう

決して賢者タイムではない。

落ちつけている間、不思議そうにして佇んでいた少女に視線を向ける。

「君の 「チルノちゃん逃げて!!!!」」

凄まじい速度で俺にのっかかっているチルノとかいう少女を突き飛ばした。  
主に俺に向かって。

「チヨツ!!!!」

再びの衝撃。

くぁ w s d f r f g t g h y ふういこーp・oー あrしゅf!?

・・・

やべえ、また少し漏れた。

ええ加減にせえよこいつら、ほつとくとまた何が来るか分かんないから、俺はお腹の回復を待たずに意識を移す。

「おまえらホントおちついて・・・」

「このひとキ○ガイよ!!!!」



!?

おいおい、こんなにも紳士的な俺をつかまえてキチ○イ呼ばわりかよ。

「なんだって!?!」

おまえものつてくんなよ!!

「チルノちゃん逃げよう!!」

「うん、わかった。」

馬乗りの体勢からチルノちゃんを引っ張っていく少女。

「ま、待て。」

声がかすれる、身体的なダメージはないが心が痛い。

それよりも何よりもお腹が痛い。

ポルトも真つ青な速度で逃げて行く少女達、よく見たら地面に足が付いていない。

なんか少し浮いてる!?!

くそ、逃がせない、逃がしてなるものか。

このままだと少女達が家に帰って言いふらしてしまっただろっ。

“あのお兄ちゃん私を○イプしようとしてきたの!?!”

.....

あ、なんか涙でてきた。

肩身が狭いどころじゃねえぞ。

正に警察が動くレベルである。

俺はこれからたとえ一部の人にもそんなレッテルを貼られて生きて行くのか、嫌だ、例えもう会うことのない人達であっても、俺は胸を張って生きて行きたい！！

ドクンッ！！

その瞬間俺の体に何か不思議な力が溢れた。  
なんだろうこの気持ち、なんか切ない。

本能的に俺は前方に行く少女達に向け、力を解き放った。  
その途端。

「ヘヤッ！！！！？？？」

少女達は奇妙な声をあげ止まった。  
どうしたのだろうか、なんかきよろきよろと周りを見渡している。

「チルノちゃん」  
「大ちゃん」

二人は視線を交わすとそれぞれ別の茂みに入ってしまった。  
助かった・・・のか？

とっさにでた力が形勢を逆転させるなんて、俺ってば主人公なんじゃないだろうか？

なにか言葉に出来ない万能感が俺の体を包んでいた。  
改めてその力を確認する。

・・・なんてこったort

わかった、わかってしまった。

俺を包む万能感の正体、最早包むという表現もおぞましい。俺には能力が芽生えてしまったようである。

その能力とは

「肛門括約筋を・・・緩める、程度の能力・・・だと。」

もうやだおれ、こんな能力を持って胸なんか張れない。

なんか逆に申し訳ない。

ということはあの少女達も。

視線を少女達が入っていった茂みに目を向ける。

不憫だ・・・

茂みの向こうからは風に乗せて微かな香ばしい匂いがしたような気がした。

なに？○ソとな？（後書き）

妖精に○んごさせるなんて・・・腐ってやがる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1974z/>

---

肛門Project

2011年12月7日01時59分発行